



平成29年第3回市議会（8月議会）が開かれました。

8月18、21、22日に本会議が、8月28日に文教委員会が開かれ、教育に関する諸問題について質疑応答がありました。主な答弁内容は、次のとおりです。

堺市の小中学校における各教科の学力の現状と、学力向上のための施策について

本市小中学校における学力の現状につきましては、全国学力・学習状況調査が始まった当初に比べ、全国平均との差が縮小し、正答率40パーセント以下の下位層も減少するなど、成果が見られます。

中学校では、国語の活用問題で課題がありますが、小学校では、平成28年度算数の活用問題では、全国平均を上回る結果となっています。また、平成28年度大阪府中学生チャレンジテストにおいては、1年生の国語、2年生の国・数・英で、府平均を上回る結果となっています。

引き続き、「堺市教育大綱」及び「第2期未来をつくる堺教育プラン」に基づき、子どもたちの「総合的な学力」の向上、豊かな心と健やかな体の育成に取り組んでまいります。

今後の取組としましては、「少人数教育によるきめ細かな指導」「堺版授業スタンダード等を活用したさらなる授業改善」「家庭学習習慣の確立」「学校図書館の活性化」等を重点取組として学力向上に取り組んでまいります。

世界遺産学習について

昨年度の夏季休業から、小中学生対象に、百舌鳥・古市古墳群について調べたことをまとめる「古墳の自由研究」を募集し、堺市博物館に展示しています。

昨年度は、245点の応募があり、そのうち、古墳について調べたことを、図や資料などで使ってわかりやすくまとめ、考察した優秀な研究成果を展示しました。

今年度は、世界文化遺産推進室と連携して、仁徳天皇陵古墳を含む、百舌鳥古墳群を空から見学するセスナツアーを企画しており、最優秀賞及び優秀賞受賞者10名を保護者同伴で無料招待する予定です。

今後も、自由研究や「子ども堺学」等、郷土堺を学ぶことを通して、堺への愛着と誇りをもち、未来の堺をつくる担い手となる堺っ子の育成に努めてまいります。

堺高校の「ものづくり」教育について

堺高校は、工業技術者として社会に貢献できる人材や創造的な感性を持って活躍できる人材の育成を図り、明日を築くものづくりの世界を広げるよう努めています。

「ものづくり」教育の継承については、これまで複数教員による指導体制を敷くとともに、民間企業の技術者を招いて講習会を実施する等、教員の技術・技能の向上を図ってまいりました。今後も、堺高等学校の「ものづくり」のすばらしさを継承できるように努めてまいります。

英語教育の充実について

本市では、英語教育推進事業として、教員研修の充実を図るとともに、各小・中・高等学校へネイティブ・スピーカーを配置し、担任や英語科教員とのチーム・ティーチングを行っています。

また、研究校においては、生徒の英語による言語活動中心の授業を進め、その成果を検証してまいりました。

さらに、各中学校においては、昨年度から、中学校卒業時に求められる英語力を達成するための学習到達目標を設定し、実践してまいりました。

今後も指導力の向上に向けた教員研修の実施、生徒のコミュニケーション能力の育成や学んだ英語を積極的に使い、話したり聞いたりできる英語力を高めるよう授業改善を図るとともに、優秀なネイティブ・スピーカーの安定した確保と充実に努めてまいります。

学校図書館司書の配置について

学校司書は、学校図書館の活性化を図り、学校図書館教育を推進することを目的として、配置いたしました。特に、教員の並行読書や調べ学習等の授業を支援することをねらいとしています。

学校司書の配置につきましては、2校に1名を配置し、週4日、1日4時間半の勤務となっています。6月には40校配置し、これまで勤務していた学校図書館職員等を含め、全43中学校に学校司書を配置しております。学校司書が配置された中学校では、開館日数が増え、図書だよりの発行や各教室用の掲示物を作成する等、生徒の学校図書館の利用をうながす取組が進められています。

堺マイスタディ事業について

堺マイスタディ事業では、学力・学習意欲の向上とともに、家庭学習習慣の定着を図ることを目的としています。平成25年度から全市立小中学校で実施しており、小学校では、国語・算数を基本に、中学校では、数学・国語・英語を基本に、平日の放課後や長期休業中に実施しています。

また、平成28年度からは、教育関連企業に業務委託して行う土曜マイスタディを、モデル実施校12校で、土曜日や長期休業中に実施しています。

マイスタディ事業がより成果をあげるためにはスタッフの確保が欠かせません。

例えば、大阪府立大学では、マイスタディスタッフの活動が単位認定され、学生にマイスタディスタッフとして参加していただいております。他大学についても、インターンシップを単位認定する大学が増えています。今後も、大学等よりインターンシップ生を受け入れる際に、マイスタディスタッフとして活動してもらえよう、チラシを配布するなど、周知に努めてまいります。

スクールカウンセラー配置事業について

本市では、幼児児童生徒の不登校や問題行動に対する適切な対応をはじめ、学校における教育相談体制の充実を図るために、臨床心理士をスクールカウンセラーとして配置しています。

スクールカウンセラーへの相談件数につきましては、中学校区にスクールカウンセラーを2名配置している校区では、中学校区にスクールカウンセラーを1名配置している校区と比べると約2倍の相談件数となっております。このことから、相談ニーズは高いものと考えています。

このことを踏まえ、教育委員会では、平成29年度におきまして、6人の配置拡充のための予算要求を行ったところです。今後につきましては、スクールカウンセラーの適正な配置のあり方について、引き続き検討してまいります。